

第2回 日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会

議 事 録

日 時：平成29年2月14日（火）午後3：30～
場 所：日田市役所 庁議室

■日 時 : 平成 29 年 2 月 14 日 (火) 15:30～

■場 所 : 日田市役所 庁議室

■出席委員 : 15 名中 12 名出席

飯田委員 日隈委員 石橋委員 十時委員 井上委員 永松委員
諫山委員 篠藤委員 岩里委員 梅木委員 福士委員 海老原委員

■次第

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議題

(1) 日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の見直しについて

・日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗管理スケジュールについて

・日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 改訂(案)について

・日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 アクションプラン

平成 29 年度版(案)について

(2) その他

4. 閉会

発言者	主 旨
事務局挨拶	<p>皆様こんにちは、定刻となりましたので、ただ今より「第2回日田市まち・ひと・しごと創生戦略審議会」を開催いたします。</p> <p>会議に先立ち、任期途中で交替されました委員のご紹介をさせていただきます。</p> <p>日田商工会議所 会頭 十時康裕様でございます。</p> <p>昨年11月1日付けでの交代となり、任期は、前委員の残任期間であります、本年8月までとなります。どうぞよろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>本日は、JAおおいた中西部事業部の河津忠晴様、子ども子育て会議委員の日野幸子様は所要の為欠席されております。また、日田青年会議所 梅木自敬様につきましては、所要で遅れて参加されます。また、大塚副市長につきましては、急な公務の為欠席させていただきます。</p> <p>続きまして、会長の別府大学 篠藤先生からごあいさつをいただきます。</p>
会長あいさつ	<p>皆さまこんにちは。昨年度私共が議論しまして、答申を出しましてこの戦略会議に基づく計画が日田市でも策定されたところですが、引き続き私共は事業の進展についてチェックをしていくと、こういった役目を仰せつかっております。今日は第2回目ということで忌憚のないご意見をいただければと思います。</p>
事務局	<p>審議会設置要綱に基づき、審議の進行は会長にお願いいたします。</p>
篠藤会長	<p>それでは会議の成立につきまして、事務局の方から報告をお願いします。</p>
事務局	<p>審議会に設置要綱に基づき、半数以上の出席が必要となっております。本日、委員15名中11名参加していただいておりますので、本日の会議が成立することを報告させていただきます。</p>
会長	<p>それでは議題に入りたいと思います。総合戦略の見直しということで、資料に基づきまして事務局は一括して説明をお願いします。</p>
事務局	<p>■資料1 日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗管理スケジュール ■資料2 日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂（案） ■資料3 日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプラン 平成29年度版（案）について説明</p>
会長	<p>3つの資料に基づいてご説明がございましたが、まずは資料の1番目でスケジュールなんです、ご質問ございますか。（質問なし）</p> <p>それでは続きまして改訂版ということでゴシック体で太字になっている部分で、これに基づいて2番目に説明がありました。これについてご質問、ご意見をいただきたいと思います。</p>
委員	<p>資料2の変更点について質問です。P29の子ども咸宜園塾の推進ですが、これに伴うアクションプランも出ているんですけども、中身としては名称は子ども咸宜園塾となっているんですけども、実際やっている中身は、基礎学力を上げるためのものが中心で、郷土愛をはぐくむ等言っている割にはそのことには触れて</p>

	<p>いないですね。咸宜園の広瀬淡窓が、月旦表できちんと身分とかそういうものに関係なくその人のその時点の学力や能力を点数で評価したんですけども、淡窓自身は何をこの咸宜園でしたかという、詩を自分で作って、情緒、自分の人間性を高めていくことに力を置いたというふうになっているんですけど、子ども咸宜園塾と書かれてはいるが、その具体的なものというのはあまりこれに、アクションプランにもそうですけれども、今、教育行政指針のパブリックコメントをとっていますけれども、その中にもないんですよ。だから、銘打っている割に薄っぺらいというか、郷土愛と言っている割には、淡窓の一番大事にしていた人間性を高めていく、それを詩を作ることでそういう情緒を高めていくというようなことをしていた、そういうのがあまり総合戦略の中で反映されていないし、教育行政指針の中でもない、教育委員会はあまりその辺は考えてないのではないかなというふうに思えますね。そこはもう少し考えたほうが良いのではと思います。</p>
委員	<p>もう一つはP6で、これは訂正部分ではないんですけど、農林水産物の6次産業化の支援なんですけれども、いま出されているのは農業振興ビジョンもありますし、中小企業振興計画、どちらも今パブコメをとっているんですけども、これにあるのは農商工連携をしていく、そして中小企業振興計画では、そういった食料産業、そういったものについて、地元の農産物を使った加工、新商品開発については支援をしていきますよということであるんですけども、ここで言っている6次産業化というのは自己完結型なんです。だから、その農家が、あるいはその範囲内で食品加工するという程度の話で、日田の市内での食料産業、例えばつえエーピーもありますし、マルハラ醤油さんもありますし、いろんな食料産業と連携して、餅は餅屋で連携して、新商品を開発するというようなところが、総合戦略には出ていない。だから、今検討している農業振興ビジョンや中小企業振興計画では謳っている、総合戦略はそこがない。今回変えるようになっていませんけれども、実際に今やっているのここは入れるべきじゃないかなと思います。</p>
会長	<p>今、2点のご質問がありました事務局はいかがですか。</p>
事務局	<p>子ども咸宜園塾の関係につきましては、今いただいた意見を担当課の方へ再度投げ返したいと考えております。また、6次産業化の支援につきましても、再度ビジョン等確認する中で、次回の会議までに整理をさせていただきたいと思えます。</p>
委員	<p>私は初参加ですが、実はこの審議会の前に第6次総合計画の審議会に出席したんですけど、第6次総合計画というのは日田市の一番のマスタープランだと思うんですけど、今、これが審議中なんです。もうすぐできあがるんですけど、できあがった段階で当然アクションプランみたいなものが出てくると思うんですけど、総合計画に対して。それとこの総合戦略とはどういう関連性になるのでしょうか。</p>
事務局	<p>資料のP1をお開きください。まずこの総合戦略につきましては、国のまち・ひ</p>

	<p>と・しごと創生法の施行に伴い、これは日本全体が人口減少の社会に突入したということで、このまま放置すると日本の経済、生活が苦しくなる、困難になってくるといふことで、国全体の動きの中で日田市においても昨年2月に、いかに人口減少に歯止めをかけるかという目的、これを成長戦略という言葉で言われております。それからもう一つは、人口が減る中でいかにそれらの地域で生活を営んでいくかという調整戦略、人口が減るのは仕方ないよと、しかし減る速度を少しでも緩めまじょうと、人口が減る中でも、だんだん経済規模が縮小する中でもそこで営みができる社会を構築まじょうといった趣旨の目的の中で、今回の総合戦略というものを策定まじょう。この策定の背景とまじょうして、さきほど述べた背景ともう一つは、日田市は自治基本条例、昔は国の法律にまじょうまじょうして市の最上位計画といふことで総合計画といふのがあります。この第5次の総合計画の期間中でしたので、P1の下の方にありますが、第5次総合計画の中に日田市の人口ビジョンがあり、まち・ひと・しごと創生総合戦略があります。ですからあくまでもこれは人口減少に歯止めをかける施策を主だててこちらの総合戦略に掲げると、総合計画はそれ以外の道路基盤なり、生活基盤なりいろいろな分野を入れ込む、市全体を網羅したものが総合計画であって、人口減少社会に対応することに特化した計画が総合戦略といふ位置づけになっています。</p>
委員	<p>実は先ほど総合計画の審議会で、人口減少問題について質問したんですね。第6次総合計画の中に当然、重点施策として人口減少対策といふのがあるわけですよ。そうするとダブっているのではないかといふ感じがするんですが。同じことをダブってやる必要があるのかなと。総合計画も29年度から3年間の計画なんですよ。その中に重点施策として人口減少対策といふのが当然あるんですが、そこの関連性はどうなんでしょうか。</p>
事務局	<p>当初からダブったイメージの中で、目的がそれぞれ異なるといふことで、ただ終着点是一緒です。日田市を今後どうしていくのかといふことに対しては同様ですが、ダブった形を想定して総合戦略と総合計画といふのが存在している。委員については総合計画の委員にもなっていていただいておりますから、総合計画については市全体の計画、その下には個々のいろいろな、障がい者の計画なり、環境の計画なり、子どもの計画なりいろいろな計画があります。それらは総合計画に書かれたことを重複する形でそれぞれ具体的に記したのが個々の計画といふことになります。</p>
委員	<p>私が心配するのはダブった中で無駄が発生するといけないんじゃないかと。予算も限られてますし、職員の数も限られた中でダブって無駄が発生すると良くないのではないかといふのが私の心配なんです。</p>
会長	<p>これは昨年度総合戦略をまじょうして、これから5年間といふことで策定されたわけですが、総合計画の中に包含されてプランニングされているといふことで、従ってそれぞれ担当課が事業を組むわけですが、総合計画の事業があって、別途にこの総合戦略の事業があるといふわけではないといふことです。</p>

委員	無駄なく調整できていればいいと思うんですが。
事務局	それは調整させていただく中で、無駄がない形の中で目的達成をしていくということで整理をさせていただいております。
委員	今からこの第6次総合計画が決まってくるんですね、来月。その中で当然KPIとかも決まってくると思うんですね。その時に総合計画のKPIとこの総合戦略のKPIと整合性が取れてないとまずいと思うんですね。
事務局	総合戦略、総合計画の同一のKPIの場合は同じ数字を用いています。ただ性格上それぞれ総合戦略しか持っていないKPI、総合計画しか持っていないKPIというのは当然ありますが、同じものであれば当然同じ目的ですので、同じ数字ということになります。
委員	総合計画はほとんど網羅されているんですね。その中にこれが含まれると思いますので。
会長	他にいかがでしょう。
委員	今更なんですが、28年度の市政方針の中で総合戦略の中に関わる事業数というのが124事業、金額とすれば2,091,000千円程度ということになってますから、これは補正が組まれてますからもう少し増えている可能性があります。その事業が今日全部、訂正があったり、どのような進捗具合かというのをしているわけですけど、単純に見てこれから31年度まで続くんですけど、日田市の創生に対してあまりにもインパクトがなさ過ぎるというか、全体的に網羅しているから一つ一つ確実にやっていってるけど、果たして日田市の創生に核の部分が、人口減ということが根本にありますよね、それをクリアするために何をすべきかという部分が非常に分かりづらいというか、多種多様過ぎて。例としましてアクションプランのP5シティセールスの強化の中に日田祇園ユネスコ無形文化遺産登録ということになりました。じゃあこれを活かして、関係者とか市の職員も一生懸命頑張っただけでここまで到達したと思いますよ。これを利用することによってどうやって集客をするかという部分が具体的に、観光であったり交流人口の増大という形になってくるから、そこら辺の事業の企画というのが一番重要視されるんじゃないかと思うんですね、個人的に。これの今の集客力が集団顔見世の時に1万人くらい。土日の曳山行事の時に5万人くらいですか、今回他の九州と一緒に登録されたところと比較すると日田の見物客、入込客は少ない。極端に少ない。それをどうやってこのチャンスを活かすかということが、今後取り組む一番大きな課題としてこの部分で言えば、というような捉え方で一つ一つの事業をこのことによって日田市の総合戦略、日田市の戦略という形をとっていくかという部分が非常に薄いのではないかという思いがしているんですが、27年が少しかかった、28年、これから29年、30年とありますが31年までは取りあえず1スパンとしてやっていくわけでしょう。インパクトのある事業で日田市はここに向かっていくという部分を、事業というものがもう少し表に出すべきではないかと思いません。

<p>会長</p>	<p>今ご発言をいただいたんですが、これは事務局が答えるのはなかなか難しいですかね。というのはこの議論は昨年度、答申を出そうという時に総花的過ぎるのではないかと、限られた資源の中で5年勝負だというんだったらもう中心的にこれだということをやるべきではないかという意見がかなり出たわけです。そこで議論をしながら最終的には総合性という意味で、総合的な、行政として総合的に取り組むということを了承した立場で、ただそこには答申を出す時に重点施策の明確化、縦割りになり過ぎてそれぞれからあがってくるという懸念が表明されたので、この問題を横ぐしを持ってという、先ほどの委員のお話も横ぐし論だったと思うんですね。これについては市長のリーダーシップの元にこういうような明確化と横ぐしというような文言の中で、これから取り組むという時にそういったことを配慮していただきたいと、付言したのではないかなと思います。何人かの委員もその時に言われたと思いますが、やはり何かやってほしいよねというのは審議会としても共有していたわけで、そういう文言で提出したのではないかなという気がするんですが。それを再確認して、行政の施策というのはきちんとした形でありますよね、それと例えばYoutubeで100万回再生されたら別府を温泉の遊園地にするなんてほとんどホラみたいな話をやって、大分県が温泉県って言ったけどあれはいろんなインパクトがある、素人がYoutubeに出て、最後はシンフロですか、どこに行ったってあれは見たと、そればかりやってると行政ではないわけで、プレゼンテーションと切り込み方、切り口という問題だろうと思うんですね。どこかで切り口でずばっと切って、わっとするものは絶対必要ですけど、行政計画の中にシンフロだっていうのはなかなか書けないという、こういうことで先ほどいったこの議論というのは昨年度かなりこの審議会で活発に議論されて、そういった文言の中で市長の方に答申したのではないかなと思うんですが。いかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>総合戦略の一番の必要性というのは人口減少問題にあるわけで、定住人口をいかにして保持していくか、交流人口を増やしてそこから取り組むか、ということが一番大きなことだと思うんですね。産業の振興とかはもちろんそれに関わってくる部分もあるんですけど、シティセールスによって交流人口を増やす、移住者を増やす、選ばれる自治体にならなければいけないんですよ。そのためには今日日田市にはない、一目で分かるような自治体としてのブランドメッセージが必要だと思うんです。日田市にはそれがない、この中には。これは自治体のキャッチコピーと言えることだと思うんですけど、例えばP22のシティセールスの強化ということで、いろんなことが掲げてありますよね。定住・交流人口の増加、それと併せて地域の製品の販売拡大とか企業誘致とかいろいろあげてあるんですけど、どこからそういう人たちを持ってくるかという部分も含めて、選ばれる自治体になるためには、何をしなければいけないかというのをもう少ししっかり考えて、それをきちんと、例えばホームページを見ても、あるいは広告等を見ても一目で日田市が分かるようなそういったブランドメッセージを作らないと、だんだらこん</p>

	<p>なに書き上げたって、地元の者としても本当に分かりにくいと思うんですよ。結局総花的にしか思えないですよ。例えばICTを活用した積極的な・戦略的な情報発信とある中で、日田市の旬の情報や移住情報、これを積極的・戦略的に発信するとあるんですが、これはどこもやっていることで、横並びにやってたって誰も見向きもしないですよ。もう少しですね、戦略的にどこから持ってくるというのを含めて考えていかないとこのままあと3年間、進んでいったって何にも変わってこないと思うんですね。そこら辺をしっかり見直してほしいですね。</p>
事務局	<p>シティセールスに関してご意見をいただきましたが、まさにその通りだと思います。本日改訂案をお示ししたわけですが、はっきり言ってこんなに薄い、総合戦略にしても40ページ余りの薄い計画の中で、お示しするのはかなり難しわけでございます、この薄い計画の裏にそれぞれの施策がびっしり詰まっているというふうに私どもは考えております。それぞれの担当課がこの計画に基づいて具体的な事業・施策をやっていこうとしているわけでございます。先ほど委員がおっしゃいましたブランドンメッセージですね、当然必要だと思っておりますので、一つ一つの施策の中で具体的なものを出していかないと抽象的な話だけでは委員のおっしゃった通りになろうかと思っております。そこは担当課の方に伝えていきたいと思っております。またアクションプランにしても事業名を羅列しただけですので、これは議会の方にも提案していくわけですので、また金額や内容等もこの場では示すことはできませんけれども、こういった事業を一つ一つ進める中で委員のご指摘のことについてもできたらいいかと思っております。</p>
委員	<p>P16ですが、日田に住みたくなる人の流れをつくるのところです、日田は大分県でありながら、商業圏にしる人の流れにしる福岡県みたいなものなので、こういうふうな施策になるというのは当たり前なんですが、一応大分県なんですね。大分に行っている人も結構いるんですよ。大分日田間の高速バス5往復が廃止になりましたね。人が乗らないから廃止になるのではあるんですが、困ったという声をよく聞くんですよ。狙うのは福岡都市圏というのは分かるんですが、発想として新たな人の流れを作ろうとするには、大分市は大分県の中では人口が増えていきますし、もう一つは中津でしたか、中津日田道路も今から整備されますし、だから発想として、この一つの項目だけを言っているのではなくて人を呼び込もうとする発想の中で、今までと同じ福岡しかないというのではなくて、新たに大分方面・中津方面というような発想を広げた考え方も必要ではないかと。この項目を見た時に、全体に対してもそれが言えるのではないかという気がしたんですよ。</p>
事務局	<p>P16にしましては今回の総合戦略の策定の前提としてRESASといって国の経済動向等を分析するシステムがありまして、それを活用する中でまた、国勢調査の結果等を踏まえて日田がどこに関わりが強いのか、転入・転出そして買い物、人の動き、そういったことを視野に入れて、新たな発想ではなくして既存の分析に基づく対策ということで整理をしております。おっしゃる通り新たな発想を広げる</p>

	<p>ということで、対大分、対中津あたりを視野に入れた時に日田市として何がほんとに望めるのかというところを再度、事務局の思いとしては分析する中で当然必要があれば、先ほどからご意見を皆様からいただいておりますので、そういった新たな取り組みもやっていけないと思っております。昨年度総合戦略の策定の際に柱がないというご指摘は常にいただいております。総合戦略自体が国の指針に基づいて作るということの中で、日田市の現状に合わせた形で今の日田市では何ができるのかということで、総花的な計画となったことは事実です。そういった中でいかに色を出しながら他市と比較して他所の自治体に勝るものを導き出して頑張っていくかというのを今後の宿題ということで考えていますから、いろんなご意見をいただく中で、ブランドメッセージというご意見一つをとっても日田市にとってのブランドメッセージとは何ぞやと、何が必要なのかということについても再度検討をさせていただきたいと思っております。</p>
<p>委員</p>	<p>私は青年会議所といって20代から40代の若年層、若者が所属している団体の代表として出席しております。先ほど総合計画の審議会の際にも意見として述べましたが、ブランドメッセージにしる交流人口の増大にしる、日田を訪れたいくなるよなということで、細かい項目が降りてきていて、これを読ませていただいたんですが、読んでぱっと思っただのはインフラ的なところですよ。Wifiの整備をします、外国人が分かりやすいように観光案内サインをしますということになったら便利だとは思いますが。確かに便利だけど、外国から来た人たちだとか、他の地域から九州のことを何も知らない人たちが、それがあからじゃあ日田に来ようということになるかということ、来ません。全然来ません。それをどういうふうな魅力で出していくかというときに、例えば日田の歴史だとか自然だとかいうところをPRしていくというふうな方向に頭が行きがちなんです。それに基づいて企画を打っていく、イベントを打っていくとか箱物を作るとかいうような発想にどうしてもなっていてるような気がするんですけど、多分それでは一過性的に人は来るかもしれないけど、リピーターという形にはつながらない。すごいね、といってもう一回そこで学んだこと知るためにもう一回そこに来ようかということ、来ない。先ほども述べたのは「ローカルエクスペリエンス」という言葉とか日田のファンを作るとかいうふうな形で、そういう物とか歴史とか伝統とか目に見えたり脈々とつながってきたものに対してPRするというふうな手法もいいんですけど、やはり日田に来ていろんな人と交流して、日田っていいまちだよなとここに来て人とすごい交流ができたよなというような、滞在した人が経験、人的なつながりの経験というものをPRしていくことが、例えばインバウンドの外国人にしてもそうですが、若年層にしてもそういうのがすごい日田に対する魅力の発信につながっていくんですね。例えばJTBさんの総合研究機関とかでも日本に一番足りない部分はそこだといっていて、ローカルエクスペリエンスという視点を持った形で施策を打っていくとどの地域にもないよな、さきほど事務局がおっしゃいましたけど、日田独自の計画というのが見えてくるのではないかなと思うんで</p>

	<p>すが。もちろん具体的な施策の中で考えているかもしれませんが、この分野ってこれからどんどん動向が変わっていくと思うんです。正直3年後にまったく別の計画をとっていてもいいと思うんですよ。ですからこの部分は尖っていいと思うんですよね。先進的なものごとを積極的に打ち出して行って市民の方々に意識涵養だとかそういうことをやっていくというふうなスタンス、攻めのスタンスで行っていいと思うので、そういうのがもっと反映すると、もっと市民も盛り上がると思います。これは攻めていい部分なのに置きにいつているなという感じがすごいあるので、私はもう少しそのスタンスが見えると若い連中の代表として言わせてもらおうとワクワクします。</p>
会長	<p>他の委員の方いかがでしょうか。</p>
委員	<p>皆さんのおっしゃってることを否定するつもりはありませんが、どうしても観光とかイベント、人が集まることに議論が向きだしたなど、それはそれでいいんですけど、私たちの住む・働くというところがもう少し皆さんから議論を聞きたいというのが正直なところで。確かに人が来て、別府の例が出ましたがそれは遊びに行ってお金を落としていってと、最終的に人口が増えないとどうにもならないよというのが大きなテーマである中で、雇用の確保についての意見が皆さんから出てくれると私たちも参考にできるというのが正直なところで、今日は皆さんが思っていることをおっしゃってるだけなので全然否定するつもりはありませんけど、そういった面にも目が向けられるとどうなのかなと思います。</p>
会長	<p>他はいかがですか。</p>
委員	<p>私は市民を巻き込んでという考え方が必要だと思います。先日会議所の研修で京都を訪れた時も町全体でおもてなしをするというようなイメージがありましたけど、ブランドメッセージ的なところで市民に分かりやすく柱を明確にしたコンパクトにまとめたメッセージを送るということは大事だと思います。一方ではそれだけしとけば定着するのかということ、そんなものではないと思います。いろんな施策をやって全てのことを整えていかないといいまちづくり、将来のまちづくりはないと思いますので、この一つ一つの施策というのはそれぞれに意味があって、大事なものでもあるんだろうなと思っております。ただ施策を読むと非常に具体的な施策というふうに書いていながらここにあるのは努めますとか何をしますとか割と抽象的なコメントになっているんですよね。一番最初の一回目の時に私が申ししたのは、PLAN・DO・CHECKの中でいかに一つ一つのことをチェックしていくか、その中で施策を改善していくか、組み立て直していくかということが大事じゃないですかということを申ししたと思うんですが、そのチェックがこのKPIの数値だということではないと思うんですね。数値が結果になるんでしょうけど、一つ一つの施策の途中経過、そこをチェックするということが非常に大事なのかなと思います。そして施策は全ていろんな方の力でそれぞれのところで動きだせば、いい結果につながっていくだろうなと思うんで、施策の進捗というのをチェックする場所というのがどこかあるのかなと。KPIだけではなかな</p>

	<p>か数値だけでは判断できるものではないのかなと思いますので、施策を一つ一つ、まあ時間的にも大変なんでしょうけど、そこをきちっと管理するというか進捗を確認する場所が必要なのかなと思います。</p>
事務局	<p>委員のお話しの中でKPIはあくまでも評価の一つの対象物であって、KPIが全てじゃないと意見をいただいております。当然KPIの数値の達成と年度年度の結果に至るまでの過程についても当然評価の対象ということで理解していますので、今回28年度は9月に第一回の審議会を開催した際にあくまでも今のお話を聞きながら事務局としては数値のみしか資料としてお出ししていませんので、その中でのチェックという話になりましたし、再度来年度に向けてチェックのあり方、先ほど来トータルの意味合いでの柱をどうするかということにしても総合戦略の戦略自体のチェックの一つのあり方だと思っておりますので、そのあたりをどう活かして見直しに反映するか、チェックして見直しに反映するかというのを事務局なりに整理をさせていただきたいと思います。できましたらそのためにも皆様方から具体的な、こうすべきだとかいった情報をお持ちでしたらお教えいただければ、そういったことも勉強させていただく中でより良い、皆様方のお力を借りての評価という形もできようかと思っておりますので、ご協力をお願いしたいと思います。</p>
委員	<p>人口ビジョンも一緒に出しているわけですよ。2010年を起点として。2017年でもう7年経っているわけですよ、人口ビジョンの現時点における実数、ビジョンとどれくらいの開きが出ているのかということと、先日どこかの新聞に自然増と社会増の比較が出ていましたけど、そういった人口に関する資料も年に1回くらいは提出いただいた方が私どもにも分かりやすいのではないかと思います。</p>
事務局	<p>ちなみに手元の資料でお話しさせていただくと、現在、流動人口といって5年に1回国勢調査というのがあります。流動人口といって住民基本台帳の登録者数を基にして県が統計を出しております。その数字の結果で申し上げますと、わずかながら日田市は、マイナス傾向は続いていますですが少しは改善傾向であると。具体的には数字を確認しないとはっきり言えませんが、わずかながらの改善傾向はありますものの、これは自然増減でプラス傾向にあります。他市と比較して。社会増減、転入転出の差し引きは県内でも中位あたり、自然増減は上位に位置していますので、いずれにしても交流なり移住なりといったところが他市に比べて劣っている部分になるかなと。ただ、これが移住が劣っているのか、仕事、企業誘致等で求人を出しても応募がないといったミスマッチも起こっているという話を聞いておりますので、そのミスマッチをどう解消していくのかということのも大きな課題ではないか。そのためにも先週末には市内の企業が合同企業説明会を実施したり、いろんなことを行っていますので、そういったことの積み重ねも当然必要ですし、新たな視点での戦略も必要ではないかという思いもいたしております。また今お話があったように随時、そういった情報があり次第人口関係も資料として出していきたいと思います。</p>

<p>会長</p>	<p>今までのご質問やご意見を整理しますと、昨年の答申を作る前に総花的過ぎるのではないか、やはりインパクトのあるものをとということが引き続きここで議論されております。ただ一方で雇用の問題も大切ですよね、生活するというのも大切ですよね、あるいはこういった総合性を一方では担保しないという、委員の中にもそういう意見があるわけです。従って、尖ったようなことについてはきっとコンテンツに関する問題で、ICTの活用、何とかの活用とあるけれどもそれでもってイメージをアップする、ICTのどういうコンテンツでイメージをアップするという、まさに個別事業の切り口、切れですね。この切れについては、ここではなくて別途のテーブルを用意して、特に若い方々の感性を含めながらやっていくことなんだろうと。それからもう一点はコンテンツがうまくいけばいいんだけど、商売をやっているとそうなんです1個ヒットするためには10の失敗を許すと、だから税金を使うんだけど市長さんに10個失敗していいですと、尖ったものを1個成功すればという背中を例えば議会なんかで議決していただいて、失敗を恐れない市政を行ってもら。9つの失敗をやらせてみるという後押しをするのもこの審議会の役目だろうと思うんですね。</p> <p>それからもう一点がK P Iということで進捗状況をチェックしていくというのがこの審議会で今やっていることなんです、人口ビジョンの別のところのデータなどもきちんと随時示してほしいという意見もありました。それからK P Iのことばかりの説明が最後にくるけれども、途中経過を示すような、例えばこういう新しい動きが起こっているよね、芽があるよねというのが具体的に分かる、これは定性的ともいうんですが、こういうものも報告できるような場を設定してもらえないかと、そうしないとよくわからないというご意見もあり、これはきっと来年度このチェックをしていくという審議会の機能の中にK P I以外の動きがわかるそういう交流の場というか情報提供の場が工夫できないかなということではないかと思うんですね。</p> <p>ということで今のいくつかの議論を聞きながら、整理させていただいたんですが、今日は具体的な見直しそれから来年度のアクションプランを次回決定をしていくということですがそのことに絞った形で最後にご意見等がありましたらいただきたいんですが。</p>
<p>委員</p>	<p>アクションプランで二つ質問です。P2の新規事業で「森林資源流通実態調査事業」というのがありますが、これだけ見ると、森ビジョンを策定して今更流通実態調査をするのかという話にもなるんですけど、製材所8社でG-Woodという組織を作りましたし、取り分け来年度事業でこれをやる意味などが分かれば教えていただきたい。P6の新規事業で「病児保育室建設費補助事業」で、病児保育をやるところを目標としては3か所ということで来年度この事業をやるということになっているんですが、今でも県下の中で子育て支援については厚めなので、一番遅れているのは病児保育なんですね。ここがどうしても遅れている。ここに手を付けるということで、今から募集をかけてやるのか、それとも既に病児保育をやるとこ</p>

	ろを見極めてやろうとしているのかそこを説明していただければ。
事務局	「森林資源流通実態調査事業」につきましては、国産材合板や木質バイオなどの新たな木材需要が年々増加する中で流通の実態を分析し、その中で日田市が独自に供給体制を導き出すかという内容でございます。そういった調査の事業を今検討しているということです。病児保育については聞いている話で確定ではありませんが、建設の意向があると聞いています。これに対して民間ですから支援をするということで考えているという話は聞いております。
委員	アクションプランのP2企業誘致ですが、これは地方創生という前から大きな問題なんですけど、ここで一番感じるのは企業誘致といっても日田市に土地がないのではないかというのが一番の問題ではないかと。昨年か一昨年か、新規事業でプレカット工場がうきはから日田の間で土地を探しているという情報があって、市にも伝えましたが結局土地がないということで。あと市内で既に事業をしていて拡張したいから、規模を大きくしたいから土地を探している人がいるけど、これがないんですよ。ウッドコンビナートは賃貸制度が出来て埋まったのでいいんですけど、石井工業団地というのがありますが、あそこは絶望的ですよね。だからこの企業誘致のためには土地があるかということが日田市にとって重要だと思うんですね。今度予算もつけるようですが、そのところをまずしないと人材もそうですが、企業誘致のためには日田市に土地を探さないと、それを一番感じています。
事務局	委員さんが言われたことが事実で、日田はなかなか土地がないと。他市がやっているレディメイドというか、予め工場団地を造成して誘致するやり方と、日田市はこれまでオーダーメイド、相手の要望に合わせて土地を造成するというやり方です。いずれにしても土地が少ないというのが現状で、企業立地推進室の方は土地探しが一番の仕事です。統廃合で廃校しました小中学校の跡地活用の関係で、地元で使う途がないといったものについては公共資産ですので、小規模ながら工場用地として、これから大規模な工場誘致というのはかなり難しい時代ですので、小規模なり増設といったものに力を入れていくという形で動いております。委員のおっしゃったとおりの現状ですので、それが一番の課題だというのは確かでございます。
会長	次回が今年度の決定というか締めくくりとなります。ここで説明を受けて議論をしましたが、こういうようなものについてもということがありましたらまた、事務局の方に次回開催前までにご連絡いただければと思います。これで本日の議題については終わりましたので事務局は他にございますか。
事務局	机上に総合計画の第1期基本計画案を配布しております。2月13日から3月14日まで、市の最上位計画となりますので皆様方にも御覧いただいてご意見がございましたらお願いしたいと思います。ご意見がございましたら2月の27日までにいただければ、3月1日に総合計画の審議会を予定しておりますので、早めに意見を集約させていただくためにお願いできればと思います。

	<p>それから次回は3月28日に開催を予定しております。案内はまた別途送付させていただきます。次回の審議会で皆様とご協議する中でこの改訂版を決定させていただきたいとおもっておりますので、事前にご提案、ご意見がございましたら事務局の方に前もってお知らせいただくと、担当課が分かれる関係もありますのですぐお答えできないこともあるかと思っておりますので、お願いしたいと思っております。</p>
会長	<p>それでは以上で議題は終了いたしました。</p>